

◆ 1. 様々な関係者の意識向上と協力強化

■ 1-1. 学校運営委員会の能力向上・活動支援



学校運営委員会が開催した保護者への説明会の様子。定期的な委員の集まりや報告会に加え、必要に合わせて、随時、説明会等が行われている。



学校運営・改善能力向上ワークショップでは、学校の状況調査能力に焦点をあてた。成果物の一つとして、全147の調査項目からなる調査に使用するチェックリストを作成した。

■ 1-2. 教育局職員の意識向上・能力向上



バスラ教育局の次局長を迎え、「学校運営委員会を通じた学校改善活動」「子どもの参加」に対する理解を深めていただいた。



事業の持続性を確保するために、教育局がどう支援すべきか、また、具体的な実現に向けてグループで協議した。

■ 1-3. 親・地域住民の意識向上



SMCでは年に2度活動報告会を開く。コミュニティからのボランティアや寄付金を募り、自発的な活動を促進している。



学校改善活動報告会は、既に4回実施され、1施設250名を超える保護者や地域住民が出席するようになってきた。

■ 1-4. 学校改善活動のネットワーク化



学校運営地域委員会のキックオフミーティング。グループに分かれ、委員会の規定等を検討している様子。



4つの学校運営地域委員会発足後、リーダーシップ、アドボカシー、及び成功事例調査に関する研修を実施した。



学校運営地域委員会による成功事例調査の準備ミーティングの様子。調査のテーマ、方法、日程等を話し合った。



各学校運営地域委員会は、地域の各学校におけるこれまでの成功事例を調査し、報告書を取りまとめた。報告書は、他校に、グッドプラクティスを共有するための材料となる。

■ 1-5. 「学校運営委員会を通じた学校改善」対象校の拡大



新規対象校へのファシリテータ育成研修では、現行の学校運営委員会の委員も出席し、経験を参加者へ共有した。



ファシリテータ育成研修の様子。グループワークとして、仮想の学校改善計画の策定を行う参加者。



育成したファシリテータと連携し、新規対象校の学校運営委員会に対し、2013年度の学校改善計画の策定を支援した。



新規対象校の各学校運営委員会は、学校改善計画の実施、モニタリングのため、定期的に会合を実施した。

◆ 2. 学習環境の整備

■ 2-1. 学校施設修築



この学校では、新しくトイレ施設を建設した。写真は工事初期のころの様子。「学校で一番嫌いなところは？」との問いに「トイレ」と答える子どもは多い。



左写真と同じ学校にて、トイレ施設工事完了直前の様子。今期は、全対象校において、学校改善計画に基づき、トイレの改修工事を実施した。



この学校のトイレ施設では、便器にはゴミがつまり、水が流れず、使えない状況になっていた。



左写真と同じ学校にて、トイレ施設の改修後の様子。



この学校では、教室にまったく窓がなく、換気が良いとはいえない状況であったので、窓を取り付ける工事を行った。



左写真と学校にて、教室の壁を取り壊した後、窓が取り付けられた様子。



この学校では、校庭にコンクリートを流し、地をならした。乾燥し、砂塵の多いイラクでは、コンクリート詰め校庭が標準となっている。



この学校では、本館建物の屋上に新しいコンクリートのタイルを引きつめて、砂塵が教室に入り込んだり、降雨時には水漏れがないようにした。

■ 2-2. 清掃と維持管理のモニタリング



子どもに対する衛生教育セッションは、研修を受けた教員が講師を務め、各学校の全ての生徒に対して繰り返しセッションを実施している。写真は、手洗いの実践を行う子どもたち。



衛生教育セッションでは、子どもたち自身が問題を洗い出し、その原因や解決策を検討する。写真は、子どもたちが衛生状況改善の意識向上のために書いたポスター。



2010年からの支援対象校では、学校関係者による自発的な活動を促進している。上記はこの学校が実施している衛生教育セッションで、ドラマ、実演などを取り入れている。



高学年の子どもが低学年の子どもたちに衛生教育セッションを行っており、ピアエディケーションを促進している。



チェックリストを利用しながら、定期的に清掃状況のモニタリングを実施する教員。



清掃状況のモニタリングには、子どもたちも参加している。

■ 2-4. 環境整備対象校の拡大



各新規支援対象校にて、清掃用具保有状況の調査を踏まえ、清掃用具を供与した。教員や子どもだけでなく、地域住民も参加した清掃キャンペーンを実施した。



新規支援対象校で、元気に清掃する子どもたち。清掃状況の定期モニタリングの結果では、清掃状況が改善されているのがうかがえる。

◆ 3. 学校における「子どもの参加」の促進

■ 3-1. 子ども会を通じた子どもの意識向上



子ども会の活動は学校側が主要な役割を果たすようになってきている。写真はセッション計画について話し合う教員。



第1期にて作成した啓発用ノートを利用し、ノートに描かれたメッセージや絵を説明する子ども。



絵画セッションを通して、理想の学校と学校の問題について、話し合う子どもたち。トイレの故障、校庭がせまい、スポーツの機会が限られている等の問題があげられた。



学習環境の問題を確認したあとに、問題の優先付けを行った。子どもたちからは、CC活動にスポーツを取り込むことや、子どもから子どもへの啓蒙活動の実施などの案が出された。



子ども総会の参加者。子どもたちは、教育局職員や親、コミュニティの参加者を前に、各学校の代表として、子ども会の活動の成果について発表、参加者へ学校改善のための提案を行った。



子ども総会は、バスラ県では初めての試みであり、子どもたちにとっても初めての経験。総会や事前準備のプロセスを通じて、自ら発言をすることに対して自信をつけたという子どもたちは多い。

■ 3-2. 教員の理解促進（左）、3-3. 学校運営委員の理解促進（右）



各学校で行われた教員に対する「子どもの参加」フォローアップワークショップの様子。



学校運営委員会に対する子どもの参加フォローアップワークショップ。講師は教員ネットワークのトレーナーが務めた。

■ 3-5. 親・地域住民の理解促進



親や地域住民を招待し、子ども会のイベントを実施。理想の学校と学校の問題について話し合った子どもたちが、他子どもたちや学校関係者に発表し、共有した。



子ども会のイベント。この学校では子どもたちが自らアイデアを出してピアエディケーションを行う。上記は風船に草花を育てる絵を描いて環境への啓発活動を行う子ども。

■ 3-6. 教員ネットワークの立ち上げ・強化



教員ネットワークのキックオフミーティングの様子。組織の目的やルール等の作成に取り組むメンバーの様子。



子どもに優しい「教員の行動指針」の策定にあたっては、教員ネットワークでの話し合いだけでなく、教育局との協議も行われている。

■ 3-7. 「子どもの参加」促進活動対象校の拡大



新規支援対象校の教員代表者に対する「子どもの参加」研修の様子。教員ネットワークのメンバーが講師を務めた。



学校美化ポスターコンテストの作品。自らの絵がポスターになることは子どもたちにとって大きな刺激となる。